

がん患者への情報提供

効果的方法考える

徳島市で
見交換
意見

阿南市のNPO法人・AWAがん対策募金は26日、がん患者への効果的な情報提供を考える意見交換会を徳島市の徳島大学病院で開いた。

徳島、大阪、愛媛から病院や自治体などの関係者約40人が出席した。各病院の診療実績、部位ごとの患者数、治療法などを掲載した専用ホームページをそれぞれ説明し、活用例や課題を発表。徳島県が開設している徳島がん対策センターの取り組みも紹介された。

今後の活用について、出席者からは「行政と病院が連携してデータ収集や情報発信をすることが

大切」「病院の長所を紹介する」「患者が分かりやすいよう、医師が各データを分析する」などの意見が上がった。

政府は、全国のがん患者に関する情報を国が一括管理することを盛り込んだ新法の概要を固めている。がんの種類ごとの患者数や症状に関するデータなどを基に、治療法の研究や薬の開発に役立つ。

(矢田諭史)